

水稻移植期におけるスクミリンゴガイの防除法

県農業試験場 病虫部(現、農研センター農産園芸研究所病虫部)

研究のねらい

移植直後の幼苗を加害するスクミリンゴガイに対して、殺貝・食害防止効果とも高い石灰窒素による防除技術を確立する。

研究の成果

1. 石灰窒素を移植前に散布することにより、85%以上の成幼貝を殺貝し、食害株率を20%以下に抑えた。
2. 処理方法は、耕起して湛水5日後に石灰窒素(10a当り20~30kg)を散布し、その6日後に植代、10日後(植代4日後)に移植を行う。
3. 防除にあたっては次の点に留意する。
 - (1) ほ場の越冬密度を低くするため、厳寒期に1~2回耕起しておく。
 - (2) 殺害効果をあげるため、成幼貝が活動している水温で実施する。
 - (3) 葉害防止のため、石灰窒素処理後10日以上経過して移植する。
 - (4) 石灰窒素は元肥窒素に影響するため、窒素を追肥で調整する。
 - (5) 魚介類に対し、危被害の恐れがある地域では使用しない。

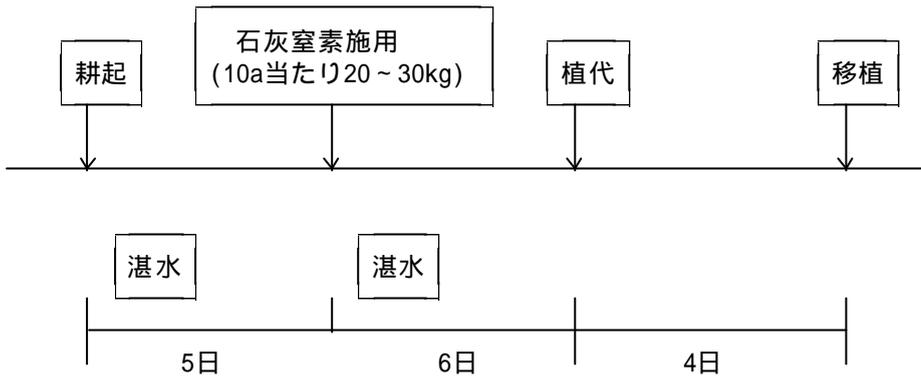


図1 石灰窒素の処理方法

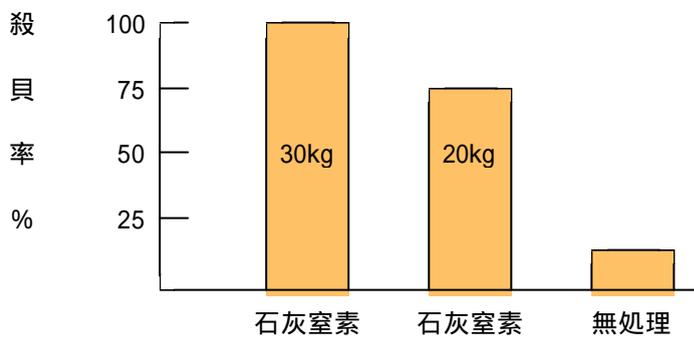


図2 石灰窒素の殺貝効果

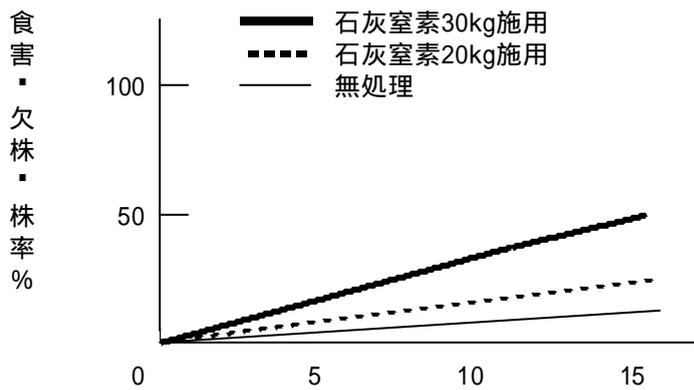


図3 移植後経過日数